

科目名称：	乳児保育演習Ⅱ	
担当者名：	米川祥子・山本真里子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>社会の変化により、子育てにおいて「乳児保育」の需要が高まり、それに伴い、乳児保育の充実が求められている。本授業では、前期の「乳児保育演習Ⅰ」「乳児保育実習Ⅰ」「乳児保育研究Ⅰ」をもとに、乳児保育についての知識や実践力を高める。具体的には、保育実践者を招いての講義や乳児保育の課題について演習を通して考える。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●0・1・2歳時の保育実践を理解する。 ●子ども・保護者・保育者それぞれの立場で成長を理解しようとする姿勢を身につける。 ●乳児保育担当者を目指す者としての自覚をもつ。 		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)					0
全学DP(3)			60	40	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》（米川）臨床心理士・公認心理師（幼児相談）	《経験年数1》 18年
	《内容2》（山本）保育士	《経験年数2》 43年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解度	授業内容を理解し、乳児保育に意欲を抱いている。	乳児保育者として望ましい対応を理解している。	乳児保育者としての対応の重要性を理解している。	乳児保育者としての重要性が何かを理解できない。
授業態度	授業の内容に興味関心を抱き、意欲的に取り組んでいる。	授業の内容に興味関心を抱き、課題をこなしている。	授業での課題をこなしている。	授業に興味関心を抱けない。
自身の考察	授業をふり返り、自分に引き付けて捉え、自分の考えを導き出している。	授業をふり返り、自分に引き付けて捉えることができている。	授業をふり返り、自分の思いを書くことができている。	授業をふり返り、内容の報告に留まっている。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーション(授業の進め方説明)	シラバスを読んでおく	10分
第2回 乳児保育者の心得	1年次「乳児保育I」のノートを見返しておく	10分
第3回 乳児保育で大切にしていること(現職保育者講話)	前回の「乳児保育者の心得」のレポートを確認しておく	10分
第4回 乳児保育で大切にしていること(現職保育者講話)	乳児保育で大切にしていることのレポートを作成しておく	30分
第5回 講話のふり返り(グループディスカッション含む)	前回の「乳児保育で大切にしていること」のレポートを見返しておく	10分
第6回 “泣き”への対応を考える(グループディスカッション含む)	前期現場参加のレポートを見返しておく	10分
第7回 “泣き”への対応を考える(グループディスカッション含む)	前期現場参加のレポートを見返しておく	10分
第8回 自分の保育観を見つめる(省察の必要性に気づく)(グループディスカッション含む)	自分の保育観を見つめる(省察の必要性に気づく)についてレポートを作成しておく	30分
第9回 自分の保育観を見つめる(省察の必要性に気づく)(グループディスカッション含む)	自分の保育観を見つめる(省察の必要性に気づく)についてレポートを作成しておく	30分
第10回 「保育現場の食育について」(現職保育者講話)	食指導についてのレポートを作成する	30分
第11回 「保育現場の食育について」(現職保育者講話)	食指導についてのレポートを作成する	30分
第12回 「保育現場の子育て支援について」(現職保育者講話)	保育現場の子育て支援についてについてのレポートを作成する	30分
第13回 「保育現場の子育て支援について」(現職保育者講話)	保育現場の子育て支援についてについてのレポートを作成する	30分
第14回 「連絡帳について」(グループディスカッション含む)	連絡帳についてのレポートを作成する	30分
第15回 乳児保育者として大切に思うこと(保育観)まとめ	本講義のこれまでのレポートを見返しておく	10分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。

授業への積極的関与40% 提出物60%

課題に対するフィードバック

各課題に対して、その都度コメントシートでフィードバックする。
最終課題は、希望者には返却する。

教科書・参考書

<教科書> 「乳児の発達と保育」 エイデル研究所 授業で毎回使用する。
「はじめて学ぶ乳児保育」 同文書院
「赤ちゃんの発達とアタッチメント」 ひとなる書房